第 16 回: 伝統をふまえる

会長 田中 仙堂

伝統とは守るものとも、伝統を革新するものとも言われます。それでは、伝統をふまえるとは、 どういうことでしょうか。

伝統をふまえると使った場合のふまえるは、伝統を、物事の判断や考え方のよりどころにするという意味です。

『枕草子』の雪の日のエピソードを思い出してみましょう。清少納言は、お仕えする中宮定子から、「香炉峰の雪はどうなっているのでしょう」と尋ねられて、格子を上げさせて、御簾を高く上げさせたら、中宮がにっこりと笑ったと記します。白居易が、「香炉峰の雪は簾をかかげてこれを看る」と詠っていることを二人はふまえているわけです。

清少納言は、周りの女房から、自分たちもその詩は知っていて、歌にも歌うけれども、御簾を巻き上げることまでは、思いつかなったと誉められたとつづけています。

「踏まえる」と漢字で表記されるように、先人の通った場所までは、その足跡を忠実にたどっていくことが可能です。漢詩を和歌に応用するのは、女房なら誰にでもできても、詠っている内容を実際の行動に移すのには、一歩飛躍が必要だったのでしょう。

伝統をふまえるというと伝統を守ることだけのように思われていたかもしれません。しかし、新たな境地に一歩踏み出せば、それは革新にも通じてくるものなのです。

平成28年2月発行 会報「えんじゅ86号」掲載